

平成15年度 鳥取空港周辺における航空機騒音調査 結果について

【大気・地球環境室】

1 はじめに

鳥取空港周辺の航空機騒音の状況を把握し必要に応じ行政の施策に資するため、例年、空港周辺の航空機騒音の調査を実施しているため、平成15年度の調査結果を報告する。

2 調査概要

1) 調査地点と調査期間

図1に調査地点、表1に調査期間を示す。調査は年2回（5月、11月）、1週間連続して調査した。

2) 調査方法

- (1) 調査は環境庁告示「航空機騒音に係る環境基準について（昭和48年環境庁告示第154号）」により定められた方法で実施した。
- (2) 測定条件は、リオン式騒音自動測定器に航空機騒音識別ユニットを取り付けた状態で、継続時間5sec、聴感補正回路A特性、動特性slow、設定レベルは、地点①63dB、地点②70dB、地点③65dBで実施した。
又、鳥取空港のフライト時刻とピークレベル時刻とを照合し、一致する騒音を航空機騒音とした。

- (3) なお、航空機騒音の評価は、ピークレベル及び機数から次の算式により1日ごとの値（単位：WECPNL＝加重等価平均騒音レベル）を算出し、そのすべての値をパワー平均して行った。

$$\text{WECPNL} = \text{dB}(A)_{(注1)} + 10\log_{10}N_{(注2)} - 27$$

(注) 1 dB(A)：1日のすべてのピークをパワー平均した値

2 $N = N_2 + 3N_3 + (N_1 + N_4)$

N_1 = 午前0時～午前7時までの航空機数

N_2 = 午前7時～午後7時までの航空機数

N_3 = 午後7時～午後10時までの航空機数

N_4 = 午後10時～午後12時までの航空機数

3 調査結果

- 1) 平成15年度の測定結果を表2、図2、図3に示す。地点①53.3～62.3、地点②52.1～72.3、地点③64.1～65.8であった。地点②においては、例年と同じく、WECPNL値70を超えた日があったが、その他の地点では、すべてWECPNL値70以下であった。環境基準は、地域の類型ごとに次表に示すとおりであり、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定することになっている。



図1 調査地点

なお、当県では、航空機騒音に係る環境基準の種類の当てはめはしていない。

地域の類型（注3）	基準値（単位：WECPNL）
I	70以下
II	75以下

（注） Iをあてはめる地域は専ら住居に供される地域とし、
IIをあてはめる地域はI以外であって通常の生活を保全する地域

2) 図4に鳥取空港周辺の各地点の平成11～平成15年の経年変化を示す。地点②は例年WECPNL値70を超えていたが、平成15年度はWECPNL値70以下であった。

表1 調査地点・調査期間

地点	地 点 名	調 査 期 間	
①	鳥取市賀露	H15.5.13 }	H15.11.6 }
②	鳥取湖山西		
③	鳥取市伏野中茶屋	H15.5.19	H15.11.12

表2 平成15年度 鳥取空港周辺航空機騒音調査結果

単位：WECPNL

調査日	地点①	地点②	地点③	調査日	地点①	地点②	地点②
5/13	(-)	68.5	欠測	11/6	54.8	66.3	65.8
5/14	(-)	65.8	欠測	11/7	58.9	67.8	65.6
5/15	(-)	66.1	欠測	11/8	54.8	64.6	64.1
5/16	(-)	67.9	欠測	11/9	62.3	68.3	(-)
5/17	(-)	61.0	欠測	11/10	54.2	52.1	65.0
5/18	(-)	72.3	欠測	11/11	61.3	64.2	(-)
5/19	(-)	69.5	欠測	11/12	53.3	66.3	(-)
週平均	(-)	68.4	欠測	週平均	58.5	65.8	65.2

（注）フライト時刻とピークレベルの一致した騒音が特定できなかった場合は（-）とした。

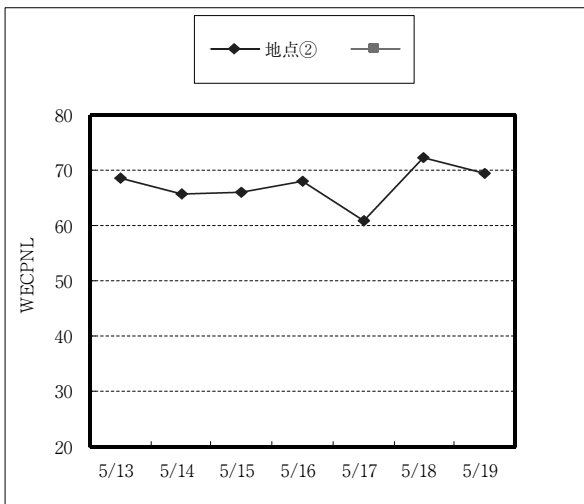


図2 鳥取空港周辺 6月

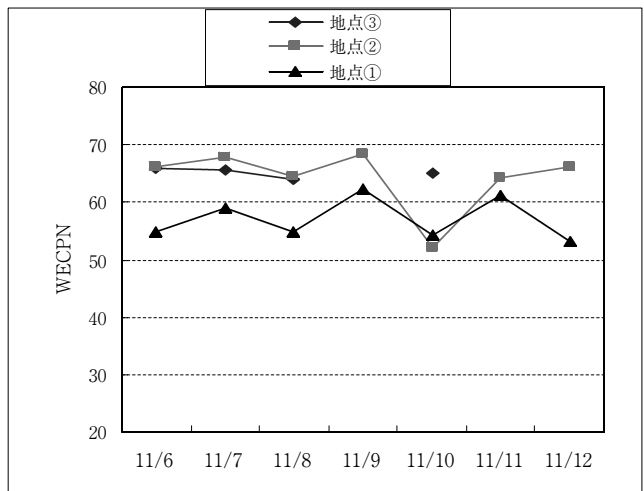


図3 鳥取空港周辺 11月

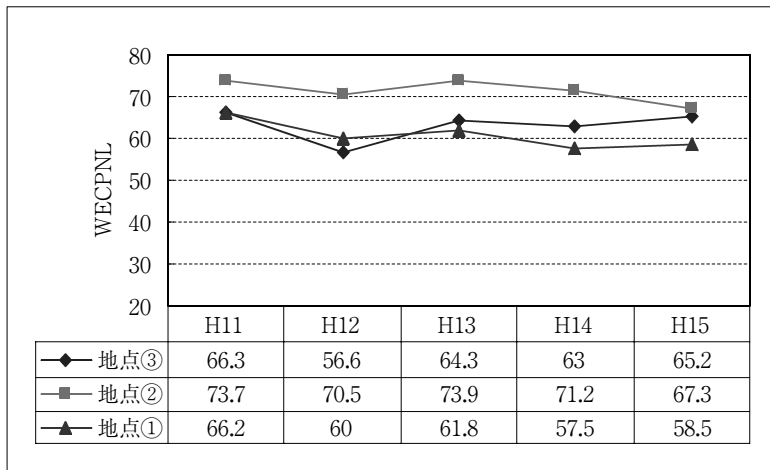


図4 鳥取空港周辺経年変化